

令和7年度

「運営に関する計画」

【最終評価】

大阪市立十三小学校

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

<現状>

いじめアンケートや情報共有の会議を定期的実施し実態把握を行うと共に、発達段階に応じた丁寧な指導を保護者や関係外部機関との連携し継続的に行っている。また、道徳科をはじめ様々な学習場面でいじめや暴力の問題を取り上げ、互いを思いやり尊重し合うことの大切さを意識させている。その結果、いじめや暴力行為の解消、それらに起因する不登校の解消に成果が表れている。更に日々の声掛けや月2回の月目標を提示したり、縦割り班活動や異学年交流、自然体験学習等の学習活動を工夫して実施したりしたことで、児童の規範意識や自己肯定感に向上が見られる。

また、特別支援学級との細やかな連携により、児童の実態に合った学習活動を行い基礎基本が定着してきている。各教科、領域で感染症対策に留意して会話だけでなく記述や1人1台学習者用端末を活用したオンラインでの交流などの言語活動の充実を図った結果、児童の学習意欲は着実に向上している。体力面では、出前授業の積極的活用等により運動意欲の向上を図ることができた。また、運動チャレンジ週間等の全校的な取り組みを実施したり、姿勢や睡眠に関する指導を積極的に行ったりした結果、児童の運動や健康に対する意識が高まり、体力も向上している。

週1回ゆとりの日を設定し、教職員の働き方改革に対する意識の向上を図ると共に、ICTを活用した職務の効率化を図っている。

<課題>

児童のいじめや暴力行為、不登校に対して、教職員間の情報共有の体制を確立すると共に、関係機関と連携を継続強化していく必要がある。併せて、学校ホームページ等の情報発信を積極的に行い、保護者・地域との連携を更に強めていくことによって、一層のスピード間をもって問題解決にあたる体制を構築していく。更に、道徳科を中心として、高い規範意識や自尊感情を育むとともに、互いに認め合い高め合うより良い集団づくりができる活動の場を充実させることも重要である。

また、体験的・協働的な学習活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びとつなげることで、総合的な言語活動を通じた読解力の向上に努めると共に、一層ICT機器の活用を進め「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて学習活動を充実させることで、児童の更なる学力の向上を図っていく必要がある。また、運動に関わっては、更なる体育科指導の充実に加えて、運動週間等の取り組みを継続すると共に、児童が楽しみながら体を動かせる機会を増やしていかなければならない。

教職員の働き方改革については、校務支援ICTを積極的に活用して、より有効な職務の効率化を図っていくこととともに、「学年団」構想を推し進めることで、教職員の校務の負担を軽減していくとともに、教職員の意識改革を行っていく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、前年度より増加させる。
- 令和7年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和4年度より4ポイント向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を50%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- デジタル教材を活用した朝学習を週1回実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を85%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を前年度より増加させる。
- 年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的回答をする児童の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度のポイントを上回るようにする。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上になるようにする。
- デジタル教材を活用した朝学習を週1回以上実施する。
- ゆとりの日を週に1回設定・実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を85%以上にする。
- 「定時の日」を月に1回設定・実施する。

大阪市長 十三小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を前年度より増加させる。</p> <p>○年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的回答をする児童の割合を80%以上にする。</p>	A 2.7
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>児童の互いに認め合う態度を育て、いじめや暴力は絶対に許されない文化を学校に醸成する。 (1-1 いじめへの対応)</p> <p>指標 年度末の児童アンケート「学校のきまりを守っている」に対する肯定的回答について90%以上にする。</p>	A 2.6
<p>取組内容②【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>子ども心に響き、自他の意見を認め合う道徳科の学習を進めることで、自分や他者の考えを大切にしようとする意識を高める。 (2-1 道徳教育の推進)</p> <p>指標 年度末の児童アンケート「道徳科の学習で、話し合うことは楽しい」に対する肯定的回答を75%以上にする。</p>	A 2.7
<p>取組内容③【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>体験的な学習に意味合いを持たせ、より深い学びにつなげることで、自己肯定感を高める。 (2-2 キャリア教育の充実)</p> <p>指標 体験的な学習を効果的に行い、年度末の児童アンケート「体験学習では、新しいことや、知らなかったことを勉強できた」に対する肯定的回答を95%以上にする。</p>	A 2.8
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組内容①】</p> <p>「学校のきまりを守る」という指標に対し、児童の肯定的回答は95.0%であり、設定目標の90%を上回った。これは、毎週の朝会での生活目標の周知や、児童会・各委員会による挨拶運動などの主体的な取り組みが功を奏し、児童一人ひとりの意識向上が図られた結果であるといえる。具体的な行動面においても、登校時の挨拶、チャイムの合図に合わせた行動、トイレのスリッパ揃え、靴の履き替えといった基本的な生活習慣が定着してお</p>	

り、良好な学校生活の基盤が構築されている。また、異学年交流の機会が増えたことで、集団としての活気と規律の双方が高まったといえる。

しかし数値上は高い達成率を示しているものの、実態としては依然として廊下や階段での走行、持ち物の忘れ物といった課題が見受けられる。また、きまりを遵守する意識の中には「注意されるから守る」という受動的な姿勢も一部に残っており、行動の質には個人差が見られる。

自己評価の数値と実際の行動の乖離を埋めるためには、児童が「なぜそのルールが必要なのか」を自省し、自律的に判断する力の育成が不可欠である。

【取組内容②】

「道徳科の学習で、話し合うことは楽しい」という指標に対し、児童の肯定的回答率は82.9%で、設定目標の75%を上回った。昨年度までの道徳科の研究の成果でもある。

1～6年生縦割りのなかよし班での活動（児童集会、なかよし集会、かるた大会など）が多く、異学年と交流する機会を十分に設け、その中で主に上級生が下級生を楽しませようとする姿が見られた。

課題としては、話し合い活動の効果的な手立てや話し合いの質に関してはまだ途上であり、具体的方策（なかよし班での活動など）が指標にどのように生かされているのか、結びつきが不透明であり今後のために分析が必要である。

【取組内容③】

「体験学習では、新しいことや、知らなかったことを勉強できた」という指標に対し、児童の肯定的回答率は95.0%で、設定目標の95%に達した。

5月に資料「小学校段階におけるキャリア発達の特徴」を各学年に配布した。また、高学年の宿泊行事やゲストティーチャーによる出前授業・遠足や社会見学などの校外学習などにおいて、目的意識を持って取り組むよう指導し児童の深い学びにつながったと考えられる。夢授業でアスリートの方の体験に基づく話を聞いたり、ヒューマンノートのケニアでの人権活動に参加したりしたことが、児童の成長につながる良い体験学習となった。さらに、児童が学級で意欲的に学ぶ姿や体験的な学習に取り組む様子を、学校ホームページに掲載して地域や家庭に発信することができた。

今後はPDCAサイクルに基づく体験学習を教師主導ではなく、児童が主体となって取り組めるよう学年の発達段階に合わせた工夫をしていく。

【年度目標 安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童は85.8%であり、目標の80%以上を達成した。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率は1.3%（2人）であり、前年度の4.0%（6人）より減少したので目標は達成だがなくなるまで尽力し続ける。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善については達成できている。
- 年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的回答をする児童の割合87.3%であり、目標の80%以上は達成した。

これらの結果から、年度目標についてはおおむね達成できているといえる。しかし、どの項目についても100%の達成を目指すべきものである。

次年度への改善点

【取組内容①】

- ・現在の良好な意識を維持しつつ、より主体的・自律的な態度を育むための指導に重点を置く。
- ・委員会活動と連携した成果の可視化（フィードバック）を強化するとともに、「何ができたか」「さらに良くするためにはどうすべきか」を児童自身が考え、互いに高め合えるような場を設ける。

【取組内容②】

- ・指標に対しての具体的方策の在り方について再考する。
- ・話し合い活動の質的向上に向けての具体案を再度検討し、実践できるようにする。

【取組内容③】

- ・体験的な学校行事（校外学習や運動会）・出前授業や福祉学習などを今後も計画的に実施していく。
- ・児童が主体となってPDCAサイクルに取り組める工夫をしていく。
- ・体験活動の振り返りを活かし、児童のキャリア形成につながる教育活動の展開を取り入れる。

【年度目標 安全・安心な教育の推進】

- ・年度目標についてはおおむね達成できているといえるが、どの項目についても100%の達成を目指すべきものであるため、今後も尽力し続ける。

大阪市長 十三小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度を上回るようにする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を、70%以上にする。</p>	B 2.4
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容④【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて学習活動を充実させることで、児童の学力の向上を図る。</p> <p>(4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進(各学校の実態に応じた個別支援の充実))</p> <hr/> <p>指標 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度を上回る。</p>	B 1.9
<p>取組内容⑤【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <p>運動に親しみ、楽しみながら体を動かそうとする意欲を高める。</p> <p>(5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)</p> <hr/> <p>指標 年度末の児童アンケート「体を動かすことは楽しい」に対する肯定的回答を90%以上にする。</p>	A 2.9
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容④】</p> <p>学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比は、同一母集団において、国語科は全学年で達成したが、算数科1つの学年において未達成だった。一人ひとりの理解度や実態に応じて、ICTなどを活用したり放課後に指導したりすることで、個に応じ</p>	

た課題に対応してきた。特別支援教育担当やサポーターなどと連携を密にとり、個々の児童に寄り添う指導を行ってきた。また、自ら課題を見つけその解決策を考えたり、学びを振り返ったりする時間を設け、一人ひとりの学習の実態を把握し、学ぶ楽しさを感じられるように、探究的な学習の過程を大切に授業展開を工夫してきた。また、継続して図書館司書との連携を図り、学級文庫の精選など児童がすすんで本を手にする機会を増やすことができた。十三読書名人および読書ノートを活用するとともに、読書名人の表彰を行った。さらに、デジタルドリル navima 中心の家庭学習を取り入れると、学習時間が増加した例があるなど、学年の実態に応じて自主学習を推進し、児童がすすんで学ぼうとする場や機会を増やしてきた。

【取組内容⑤】

「体を動かすことは楽しい」という指標に対し、児童の肯定的回答は93.6%で、目標の90%以上を達成した。児童が体育的行事や取り組みに意欲的に取り組み、日常的に休み時間にも元気に遊んでいたため、目標を達成できたと考える。また、どの学年も、トップアスリート事業や出前授業を活用し、普段の授業とは違った指導や種目を体験することができた。さらに「大縄チャレンジ」「かけ足タイム」にも、児童は楽しみながら記録に挑み、意欲的に体を動かすことができていた。休み時間の遊び方が広がる様子も伺えた。

【年度目標 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度を上回るという目標に対し、国語科は全学年で達成したが、算数科1つの学年において未達成だった。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は46.2%であり、目標の35%以上を達成し、大阪市平均の43.7%も上回った。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は90.7%であり、目標の85%以上を達成した。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は96.5%であり、目標の85%以上を達成した。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、73.1%であり、目標の70%以上は達成した、大阪市平均の73.3%とはほぼ同程度であった。

次年度への改善点

【取組内容④】

- ・探究的な学習の過程の学び方を大切にしながら、基礎的・基本的な学習の内容が定着するように、各学級の実態に合った指導法を併せて練っていくようにする。
- ・これまでの実践に引き続き、各教科との関連性をもった学級文庫の充実を図る。

【取組内容⑤】

- ・年度当初に各学年へ外部講師の授業の予定一覧を配布し、予定を組み込むようにする。
- ・大縄チャレンジ等を負担に感じている児童への声かけ等、ボトムアップを目指す。

【年度目標 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・学力・体力面について、おおむね目標は達成しているといえる。新たな大阪市教育振興基本計画を踏まえ、学力面については、目指す方向性を全員が具体的にイメージしながら実践を重ねる必要がある。体力面については、現状を維持しながらもボトムアップを図る必要がある。

大阪市長 十三小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上になるようにする。 ○デジタル教材を活用した朝学習を週1回以上実施する。 ○ゆとりの日を週に1回設定・実施する。 ○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を85%以上にする。 ○「定時の日」を月に1回設定・実施する。 	B 2.4
<p style="text-align: center;">年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗 状況
<p>取組内容⑥【基本的な方向6、教育DXの推進】</p> <p>ICT機器の活用を進めるとともに、学習者用端末を積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びとなる学習につなげていく。</p> <p style="text-align: center;">(4-1 言語活動・理数教育の充実(思考力・判断力・表現力等の育成))</p> <p>指標 年度末の児童アンケート「タブレットやパソコンを使うことで、進んで学習に取り組むことができる。」に対して、肯定的回答をする児童の割合を90%以上にする。</p>	A 2.6
<p>取組内容⑦【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>校務支援ICTを積極的に活用し、校務の削減を行う。</p> <p style="text-align: center;">(7-1 働き方改革の推進)</p> <p>指標 「学校園における働き方改革推進プラン」の基準1を満たす教員の割合を85%以上にする。</p>	B 2.2
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組内容⑥】</p> <p>「タブレットやパソコンを使って、進んで学習に取り組むことができる」という指標に対し、児童の肯定的回答は95.8%で、目標の90%以上維持を達成した。学習者用端末を使うことで進んで学習に取り組んでいると感じている児童が多いことがわかる。デジタルドリルなど空いた時間に自分から取り組んでいる児童もみられる。学習者用端末の持ち帰りは学年に合わせて実施されている。学習者用端末を活用した授業展開も多く取り組まれており、教師・児童共にスキルも高まっている。</p> <p>課題としては、調べ学習に使用したとき、AIによる要約機能をそのまま写してしまうこともあり、信頼できる情報か判断するなどの情報モラルについても併せてさらに育成する必要がある。また、タッチペンを搭載するなどのハードの更新や追加されたGoogleアプリ</p>	

をどれだけ効果的に活用できているか。新たな活用アイデアは無限にあるので、情報共有しデジタルネイティブに対応できるようにしていく必要がある。

【取組内容⑦】

「学校園における働き方改革推進プランの基準1を満たす教員の割合」は92.5%であり、指標の85%や昨年の結果85.8%も上回っている。通知表を年に2回にした影響がとて大きく、負担軽減につながった。懇談が減り、成績処理を長期休業中にできたことが要因と考える。また、時差勤務を活用し、家庭との両立を図りながら超過勤務の時間が減るよう努めたり、学年団での連携を密にするなどの工夫が教職員間でも見られた。

ただ、教育の質を高めるための家庭で行っている業務を考えると、業務量の削減や偏りにはまだ課題がある。

【年度目標 学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の73.2%であり、目標の50%以上を達成している。
- デジタル教材を活用した朝学習を週1回以上実施できている。
- ゆとりの日を週に1回設定・実施できている。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合は92.5%であり、目標の85%以上を達成している。
- 「定時の日」を月に1回設定・実施できている。

次年度への改善点

【取組内容⑥】

- ・学習者用端末を使用するときのルールの共有と指導事項の定着を図る。
- ・学習者用端末の持ち帰りの定着を学校全体として図る。
- ・ICT活用についての交流会や研修会などを引き続き計画的に実施していく。

【取組内容⑦】

- ・通知表を渡す回数は2回のまま、長期休業前に懇談を実施することで、長期休業中の生活の目標となることを伝えることができるようにする。

【年度目標 学びを支える教育環境の充実】

- ・大阪市教育振興基本計画の刷新に合わせて、グランドデザインも見直し、組織体制を再構築し業務量や校務分掌、偏りについても再考する。

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立十三小学校協議会

1 総括についての評価

校長より、「運営に関する計画」最終評価について、資料を投影しながら3つの柱「安全・安心な教育の推進」「未来を切り拓く学力・体力の向上」「学びを支える教育環境の充実」について報告を受けた。成果や課題が具体的に示されており、児童や保護者アンケートや検証資料の結果から学校の努力も伺われる。採決の結果、参加者全員が本年度の自己評価結果は妥当であると承認する。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

達成状況の評価に関しては妥当である。個性を発揮できる環境の整備や、いじめについての意識の向上は、更なる改善を求める。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

達成状況の評価に関しては妥当である。特に国語科の学力（読解力）に課題があるので、さらに個に応じた教育内容の充実を求める。

年度目標【学びを支える教育環境の充実】

達成状況の評価に関しては妥当である。教職員の意識の向上が少しずつみられているが、引き続き一層の働き方改革の工夫を求める。

3 今後の学校園の運営についての意見

- 今後も、更に学校と家庭・地域が一体となり教育活動の充実に努めてほしい。
- 小規模校によるアンケート結果には、年度ごとの差も必然である。数字にこだわりすぎず、目の前の児童の姿を大切にして指導・支援してほしい。
- 教職員の働き方改革によるゆとりを持った教育環境が児童へのきめ細やかな関わりの充実につながる。学校には引き続き意識改革を進めてほしい。